

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇  
発生予察注意報第2号

**8月以降、ネギでシロイチモジヨトウの発生が増加  
しています。本種の発生に注意してください。**

- 1 作物名           ネギ
- 2 病虫害名       シロイチモジヨトウ
- 3 発生地域       山城地域
- 4 発生量           平年比多い

5 注意報発令の根拠

- (1) 7月中旬から山城地域の一部のネギほ場において発生が見られ、8月第4半旬の巡回調査で平年比多い発生を認めた。
- (2) 9月上旬には山城地域の複数の産地で被害を認め、9月第3半旬の巡回調査でも引き続き、平年比多い発生を認めている(表1)。
- (3) 発生地域のネギほ場においては、いずれのほ場でも被害を認め、甚発ほ場も確認した(表2)。

表1 巡回調査におけるシロイチモジヨトウの発生状況

	8月第4半旬		9月第3半旬	
	被害株率 (%)	発生ほ場率 (%)	被害株率 (%)	発生ほ場率 (%)
本年	6.0	25.0	4.8	40.0
平年値	0.0	0.0	0.5	13.7

表2 ネギほ場におけるシロイチモジヨトウの発生状況(9月14日調査)

地区	ほ場数	被害株率 (%)	卵塊数/10株
京都市	4	15.3	0.4
八幡市	3	41.7	0.1

※ 連続100株/ほ場を調査

- (4) 大阪管区气象台が9月15日に発表した「近畿地方の向こう1か月の気象予報」では**気温**

は平年比高く（＋）、降水量は日本海側で平年比並または多く（－）、太平洋側では多い（－）と予想されている。



写真1 被害の甚だしいネギ株



写真2 シロイチモジヨトウ幼虫  
(キュウリの葉を食害する中齢幼虫)

## 6 防除上の留意事項

### 【シロイチモジヨトウの生態】

国内で確認された寄生植物は26科64種と寄主範囲の広い害虫で、ネギ、エンドウ、スイカなどの野菜類だけでなく、カーネーション、宿根カスミソウ、トルコギキョウなどの花き類でも地域によっては激しい被害を生じる。

雌は数十～数百粒からなる卵塊を数回に分けて、1頭当たり平均1,000粒を産卵し、卵塊は横白～灰白色の鱗毛で覆われる。

幼虫の体色は若齢～中齢は淡緑色であるが、老齢幼虫では淡緑～褐色と個体変異が大きい。老齢幼虫は体長30mm程度になり、土中で蛹化する。

年間の発生回数は5～6回で、幼虫の発生量は8～10月に最も多くなる。1世代に要する期間は25℃で、卵3日、幼虫17日、蛹9日、産卵前2日の計31日程度である。

ネギ類では葉に食入し、他の植物ではほとんどの場合、葉を綴って加害するため、薬剤散布を行っても散布液が掛かりにくく、防除効果が上がりにくい。また、幼虫の薬剤感受性は齢が進むと低下し、同一薬剤を連用すると急速に低下する傾向がある。

(※「ヨトウムシ類の見分け方と防除」(大阪府病害虫防除所)及び「原色野菜 病害虫百科第2版」(社団法人 農山漁村文化協会)から引用)

## 7 防除対策

- (1) ほ場をこまめに観察し、発生を認めた場合は以下の事項を参考に、早期防除の徹底に努める。
- (2) 薬剤散布は7日間隔を基本に数回、本種の発生状況に応じて実施する。  
別紙「表3」を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを使い、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (3) 幼虫は齢期が進むと薬剤の防除効果が低下するので、孵化～若齢期の防除を心掛ける。
- (4) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等適切に処分する。

表3 「ネギ」でシロイチモジヨトウに登録のある主な薬剤

IRACコード	薬剤名	希釈倍率・使用量 (kg/10a)	使用時期	使用回数	総使用回数
1A	ランネット45DF	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	4回以内
	ラーピン水和剤75	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内
	ラーピンフロアブル	750～1,000倍			
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内
	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内
	トレボンEW	1,000倍			
	テルスター水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
4A	スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍・0.5L灌注/セルトレイ・ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	4回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注・定植時の株元散布は合計1回以内、散布・定植後の株元散布は合計2回以内)
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内
	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
6	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	アニキ乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内
11A	フローバックDF	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	—
	エコマスターBT	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	—
	デルフィン顆粒水和剤 ※	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	—
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
15	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	3回以内
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内
	マッチ乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	ノーモルト乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
18	マトリックフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
	ファルコンフロアブル	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	2回以内
22A	トルネードフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
	トルネードエースDF	1,000倍			
28	ブレバゾンフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)
	ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)
	ベリマークSC	2,000倍株元灌注(0.5L/m <sup>2</sup> )	収穫7日前まで	1回	
		400倍・0.5L灌注/セルトレイ・ペーパーポット	育苗期後半～定植当日		
	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
UN	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	4回以内
交信かく乱剤	コンフューザーV ※	100本/10a (41g/100本製剤)	対象作物の栽培全期間	—	—

※ IRACコード(殺虫剤コード)

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

※ デルフィン顆粒水和剤及びコンフューザーVは「野菜類」のシロイチモジヨトウに登録あり

※ 各薬剤の登録内容は平成28年9月15日現在のものである。

農薬の使用に当たっては、最新の使用方法や注意事項等を必ず確認すること。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、有効成分の総使用回数についても注意すること。